



モラルサイエンスに基づく 新たな道德教育学の樹立をめざして

—— 道德的感情を育む「感知融合」の道德教育

道德科学研究センター歴史研究室 教授
麗澤大学大学院学校教育研究科特任教授

高橋 史朗

昨年、六月二十九日の日本道德教育学会を皮切りに、八月二十五日には日本感性教育学会、十月二十六日には日本仏教教育学会、十一月十日には再び日本道德教育学会で、モラルサイエンスに基づく「感知融合」の新たな道德教育学の樹立をめざす研究発表をしました。『日本仏教教育学研究』は昨年三月、特集「道德教育と仏教教育」を組み、私も寄稿しました。現在、日本感性教育学会と日本仏教教育学会の理事、常任理事をしています。

昨年四月から麗澤大学大学院学校教育研究科道德教育専攻で、「臨

床教育と道德教育」「学校教育と道德教育」という科目を担当し、私の専門分野である臨床教育学に加えて、脳科学、道德心理学、感情心理学、認知心理学、進化心理学、ホリスティック教育学、感性教育学等の多面的・多角的な視点から「新たな道德教育学の樹立」に向けて研究してきました。

明星大学と玉川大学の大学院で長年教えてきた臨床教育学は、問題児の問題行動を「例外的」と捉えるのではなく、その「問題」が普遍的に提示している教育の本質的な課題は何か、教師や親などの教育者自身の本質的な課題は何かを根本的

に問い直す学問です。

道德の教科化は大津のいじめ自殺事件を契機に実現しましたが、いじめが悪いことだと頭で理解できても、道德的心情（情動的共感）を育まなければ、いじめはな

くなりません。

新美南吉の「ごんぎつね」の授業で、小学生で「ゴン、お前だったのか」という兵十のクライマックスのセリフを兵十の気持ちになつて言える子は全くだりませんが、兵十の気持ちは誰もが説



『ごんぎつね』
新美南吉 作 / いもとようこ 絵

明できました。「認知的共感」を育む心理解に偏り、「情動的共感」が育っていないのです。

従来の道德教育の「深刻なあやまり」は、象使い（思考、認知）を象（直観、情動、感情）から降ろして、



『ホーリズムと進化』J・C・スマッツ著
石川光男 片岡洋二 高橋史朗 訳(玉川大学出版部)

象使いだけで問題解決できるように訓練しようとしてきた点にある、と指摘したジョン・サン・ハイトの鋭い問題提起は核心をついており、日本の道徳教育にも当てはまります。アダム・スミスやデイヴィット・ヒュームも道徳的感情が道徳的行為へと駆り立てると主張しました。

人間は感情的共感と認知的共感に基づいて社会的行動を行いますので、道徳性の「主人」(ハイトの言う「象」)である道徳的感情・

直観に働きかけ、「情動的共感」と「認知的共感」を共に育む「感知融合」の道徳教育が求められているのです。

ちなみに、廣池千九郎博士は「人類進歩の原因は心的感動である。(中略)人を神のようにし、且つ動物とは異なるものにするものは、人間の持つ理想に対する感動の能力であって、理性的な心ではない」(新版『道徳科学の論文』②三〇二〜三〇三頁)と述べておられます。こうした道徳的感情に関する近

年の研究調査を踏まえて、道徳的感情の教育における「感謝」の意義・役割を見直す感情心理学や道徳心理学の研究をさらに深めるとともに、平成十七年に立ち上げた「感性・脳科学教育研究会」で研究を積み重ねてきた、「感性」を脳科学に基づいて育むという観点を道徳教育にどのように取り入れるべきか、についても研究を進めています。

平成八年にモラロジー研究所から拙著『感性を活かすホリスティック教育』を出版しましたが、私が長年研究してきた「ホリスティック教育」の視点からも道徳教育のあり方を見直す研究も進めています。

「ホリスティック」という言葉は「ホーリズム」の形容詞形で、その意味する内容は元来東洋に根付いていた包括的な考え方に近いものといえます。中国の古典『中庸』の「天地の化育に賛ずる」という思想、廣池博士の「天功を助く」の思想にも通じます。

「考え議論する道徳」の前に、「感

じる」道徳教育が必要不可欠であり、こうした視点を盛り込んだ「感知融合」の道徳教育の具体的実践「道徳性の芽生えを育む幼児・家庭教育との連携」に関する共同研究を麗澤大学院生と進め、来年の道徳教育学会で発表する予定です。

こうした最新の研究成果を、九州ブロック女性クラブ交流会でも報告しましたが、木下城康(きした しろやす)研究員ならびに家庭教育課と共同研究に取り組んでいるモラロジー団体の四十の子育てサークル活動の総括を踏まえた今後の家庭教育支援活動への提言として、全国の女性クラブに問題提起したいと思います。

コモンモラリティーとしての「モラルサイエンスに基づく新たな道徳教育学」の樹立に向けた論文は、『モラロジー研究』『感性教育学研究』『日本仏教教育学研究』の次号に掲載予定で、古稀を迎える来年度中に三つの教育学会で発表した研究成果を集大成して世に問うつもりです。